

北 彰介（きた・しょうすけ）

1、プロフィール

童話作家で青森県児童文学研究会の初代会長をつとめ、県内の児童文化活動家として第一人者であった。

<生没>

1926(昭和元)年 12月 30日 ~ 2003(平成 15)年 10月 26日

<代表作>

童謡詩集『月と神様のこども』

童話集『人のよい泥棒』

民話集『竜のなみだ』

戯曲集『ぼろの歌』

<青森との関わり>

青森市に生まれる。生粋の津軽人。地域に根ざした児童文化の活動および著作をつづけている。

2、作家解説

本名山田昭一。青森市生まれ。青森師範学校を卒業し、青森市内の中学校教員を経て、青森市役所に勤務。婦人青少年課長、市民図書館副館長を歴任した後、昭和 60 年に定年退職。短大講師を務めながら、児童文化活動や著作活動に専念する。

昭和 35 年に青森県児童文学研究会を創立し、発足当初から会長として息長くリーダーシップをとり、終始一貫、地域に根ざした創作活動、昔話や伝説の掘り起こし、手作り遊びの伝承に取り組んできた。

みずからも童話のほかに詩、戯曲、創作オペラ台本、童謡詩、評論、随想等数多くの作品を書き著わした。主な著書に『青森県の怪談』『オモチャコ』『あかいくし』『ぼろの歌』がある。

昭和63年には、「世界一の話」が64年度小学校3年生国語教科書(光村図書)に採用された。津軽弁が出てくる民話が教科書に載せられたのは、これが初めてである。

現在は日本児童文学者協会会員および日本民話の会会員であるとともに、青森県民話の会と手づくり絵本を楽しむ会の会長もしている。編集発行を手がける児文研の機関誌「ずぐり」は、紙齢60号を越えている。

また、平成3年から始まった青森県民文化祭文芸コンクール実行委員会の初代委員長を務めたり、定期的に児文研セミナーを開いたりして、新人の発掘と育成にも携わっている。

3、資料紹介

○『竜のなみだ』

図書

1990(平成2)年9月1日

210mm×145mm

民話集。再話、創作併せて71編を収める。表題作のほか、平成元年度採択の教科書に掲載された「世界一のはなし」外国人が選んだ日本の絵本として紹介された「へえ六がんばる」等の作品が収録される。全作品子どもへの愛情、励ましが核となっており感動を呼ぶ。